

M45a 「ひので」極端紫外線分光撮像装置 (EIS) が観測したコロナ・遷移層の現象の分類

松崎恵一(宇宙航空研究開発機構)、原 弘久、 渡邊鉄哉、 浅井 歩、 今田 晋亮、 神尾 精、 下条 圭美、 一本 潔(自然科学研究機構国立天文台)、坂尾 太郎、成影典之(宇宙航空研究開発機構)、英米 EIS チーム

「ひので」に搭載された極端紫外分光撮像装置 (EIS) は、170A-210A および 250A-290A の波長域に放射される、温度数万度-数千万度のプラズマからのラインを波長分解能  $R \sim 4000$  にて、分光撮像観測することができる。スリット幅は最小で  $1''$  であり、従来の極端紫外の分光撮像装置に比べ 3 倍空間分解能を持つ。また、これと、従来比 10 倍の有効面積と組み合わせることで、太陽の光球からコロナへの加熱を橋渡しする遷移層でおこるダイナミックな現象の探求を目指している。

本講演では、ひのでの初期観測のデータを用い、EIS がどのような種類の現象を捉えたのか系統的な調査の結果を報告する。現象を、空間的・時間的な形態から定性的に分類し、それぞれの現象の種類において、EIS のどのラインで観測されるか、同じくひのでに搭載された X 線望遠鏡の各種フィルタを用いた撮像との比較について論じる。